

1 水 稲

1) 使用方法

薬剤名	使用目的	使用量	使用方法	使用時期	備 考
イネピタン 粒剤 (イソプロチオン :12.0% ・パクロブトラ ザール :0.45%)	節間短縮による 倒伏軽減 登熟歩合向上 [本田]	3～4kg/10a	湛水散布	出穂 20～10 日 前 ただし、収穫 45 日前まで	・本剤を使用した水田土を野菜類の 育苗床土に使用しない。 ・湛水状態でまきムラのないよう均 一に散布し、散布後は少なくとも 3 ～4 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしない。 ・黒ボク土壌の水田では効果がない ことがある。 ・重複散布や多量散布は、薬害を生 じたり、後作物や次年度の作物に影 響する場合があるので使用量を厳守 する。
カルパー粉 粒剤 16 (過酸化カル シウム:16.0%)	発芽率の向上 苗立歩合の安定 [直播水稻]	乾燥種籾重量 の等倍 ～2 倍量	湿粉衣 (地上播種 用、空中散播 及び無人ヘリコ プターによる 散播用)	播種前 浸種後	・粉衣には浸種した籾を用い、十分 水切りした後に粉衣する。 ・浸種は鳩胸状までとする。芽を切 った籾は粉衣の際に欠損するおそれ があるので使用しない。 ・種籾消毒をする場合は、本剤の粉 衣前に種子消毒剤の所定濃度液に浸 漬する。
スマレクト 粒剤/石原 スマレクト 粒剤 (パクロブトラ ザール :0.60%)	節間短縮による 倒伏軽減 [本田]	2～3kg/10a 3kg/10a (石原スマレク ト粒剤のみ)	湛水散布 無人ヘリコプター による散布 (石原スマレ クト粒剤の み可能)	出穂 20～7 日前	・本剤を使用した水田土を野菜類の 育苗床土に使用しない。 ・湛水状態でまきムラのないよう均 一に散布し、散布後は少なくとも 3 ～4 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしない。 ・黒ボク土壌の水田では効果がない ことがある。 ・重複散布や多量散布は、薬害を生 じたり、後作物や次年度の作物に影 響する場合があるので使用量を厳守 する。
	登熟歩合向上 [本田]	3kg/10a	湛水散布。 (石原スマ レクト粒剤 は無人ヘリコ プターによる散 布可能)	出穂 20～10 日前	
タチガレー ース M 粉剤 (ヒドロキシイキ ザール:4.0% ・メタキシル M:0.25%)	ムレ苗防止、 根の生育促進 [箱育苗]	6～8g/箱	育苗箱土壌 に均一に混 和。	播種前	・育苗箱土壌に混和する場合はな るべく播種直前に行く。
	根の生育促進に よる苗立の 安定[湛水直播]	乾籾重量の 3%	過酸化カルシ ウム剤に添加 して種籾に粉 衣する。	播種前	
タチガレー ース M 液剤 (ヒドロキシイキ ザール:30.0 ・メタキシル M:2.0%)	ムレ苗防止、 根の生育促進 移植時の活着促 進 [箱育苗]	500～1,000 倍 (希釈液 500ml /箱) 1,00 倍 (希釈液 10 / 箱)	土壌灌注	播種時 または 発芽後 播種時	
	根の生育促進 移植時の発根及 び活着促進 ムレ苗防止 [箱育苗]	4～8g/箱	育苗箱土壌 に均一に混 和する。	播種前	
タチガレン 粉剤 (ヒドロキシイキ ザール :4.0%)	根の生育促進に よる苗立の安定 [湛水直播]	乾籾重量の 3%	過酸化カルシ ウム剤に添加 して種子に湿 粉衣する。		・過酸化カルシウム剤に添加して使用する 場合は十分混合して種籾に湿粉衣す る。

※箱育苗：箱の大きさは 30cm×60cm×3cm、使用土壌の量は約 50

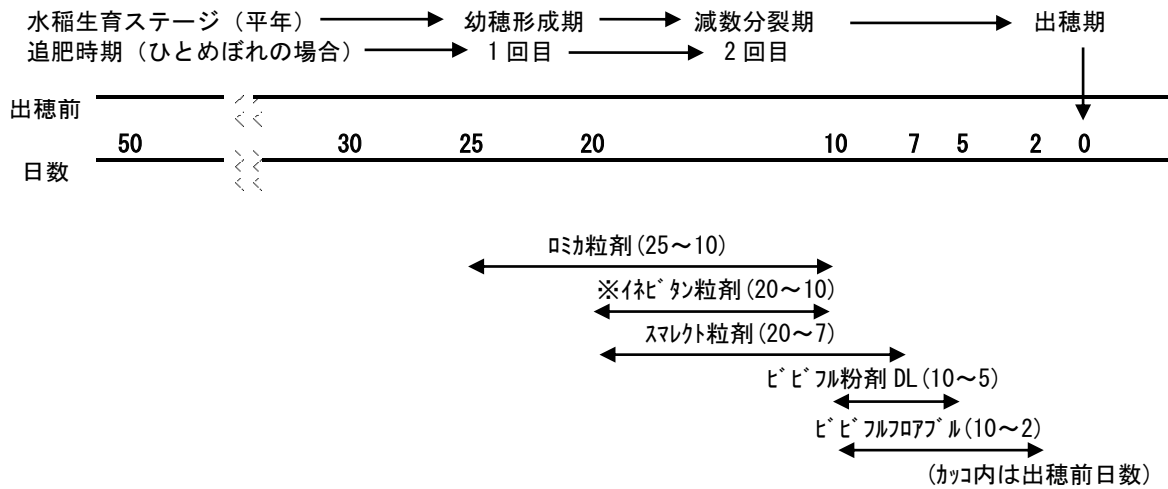
薬剤名	使用目的	使用量	使用方法	使用時期	備 考
タチガレン液剤 (ヒドロキシエチルサルチール :30.0%)	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止 [箱育苗]	500 ～1,000 倍 (希釈液 500ml /箱)	土壌灌注	播種時及び発芽後	
ビビフルフロアブル (7-フロベキサジオンカルシウム塩 :1.0%)	節間短縮による倒伏軽減 [本田]	75 ～ 100ml /10a(散布液量通常 50 ～ 150l /10a 少量 25～50l /10a)	茎葉散布	出穂 10～2 日前	・多量散布や重複散布にならないように注意する。 ・出穂予測を参考に必ず適期に散布する。
		100ml /10a (散布液量 800ml /10a)	無人ヘリコプターによる散布		
ビビフル粉剤DL (7-フロベキサジオンカルシウム塩 :0.12%)	節間短縮による倒伏軽減 [本田]	3～4kg/10a	散布	出穂 10～5 日前	・多量散布や重複散布にならないように注意する。 ・出穂予測を参考に必ず適期に散布する。
フジワン 1 キロ粒剤 (イソプロチオン :36.0%)	登熟歩合向上 [本田]	1kg/10a	湛水散布	出穂 20～10 日前 ただし、収穫 30 日前まで	・湛水状態でまきムラのないよう均一に散布し、散布後は少なくとも 3 ～4 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしない。 ・稲の登熟歩合向上を目的として使用する場合低温等生育不良条件下及び高温登熟条件下で効果的。
フジワン粒剤 (イソプロチオン :12.0%)	ムレ苗防止 [箱育苗]	15g/箱	本剤の所定量を所要量の育苗箱用の床土に均一に混和する。	播種前	
	ムレ苗防止 根の伸長及び発根促進 [箱育苗]	25～50g/箱	本剤の所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散粒する。	苗の緑化始期	
	登熟歩合向上 [本田]	4kg/10a	湛水散布	出穂 20～10 日前 ただし、収穫 30 日前まで	・湛水状態でまきムラのないよう均一に散布し、散布後は少なくとも 3 ～4 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしない。 ・登熟歩合向上を目的とする場合は、低温等生育不良条件下及び高温登熟条件下で効果的である。
	高温登熟下における白未熟粒の発生軽減 [本田]				
ロミカ粒剤 (リニコサール P:0.040%)	節間短縮による倒伏軽減 [本田]	2～3kg/10a	湛水散布	出穂 25～10 日前まで	・黒ボク土壌の水田では効果が十分に発揮されないことがある。 ・重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合があるので使用量を厳守する。 ・本剤を使用した水田土を野菜類の育苗床土に使用しない。
オクソス DS (過酸化カルシウム :19.0%)	苗立歩合の安定	乾燥種籾重量の 0.5 倍～等量	種子粉衣 (湿粉衣)	は種前	・粉衣には浸種した籾を用い、十分水切りした後に粉衣する。 ・浸種は鳩胸状までとする。芽を切った籾は粉衣の際に欠損するおそれがあるので使用しない。 ・種籾消毒をする場合は、本剤の粉衣前に種子消毒剤の所定濃度液に浸漬する。

※箱育苗：箱の大きさは 30cm×60cm×3cm、使用土壌の量は約 5l

【注意】農薬使用に当たっては必ず農薬容器のラベルを確認し、有効成分ごとの総使用回数を遵守すること。

2) 水稻の倒伏軽減剤使用の目安

本田で倒伏軽減を目的として成長調整剤を使用する場合は、出穂予測を参考に必ず適期に散布する。また、追肥や病害虫防除の時期と重なることが多いので、計画的に作業を進めることが望ましい。



※イセ[®]タ[®]粒剤はゾ[®]ワ[®]にスアレ[®]を混合したもので、穂いもち防除を兼ねることが出来る。ただし育苗期や葉いもち防除等でゾ[®]ワ[®]、もしくはイッブ[®]ロ[®]ランを含む混合剤を使用している場合は、総使用回数等に留意する。